

科 目 名

歴史学と課題Ⅱ History Ⅱ

2年 後期 2単位 選択

佐藤伸二

概 要

21世紀は、一方での国際化、他方での分権化の時代である。地球規模で考え、地域に根ざして活動する事が期待されている。自国の歴史を知り、他国の歴史を知ることが国際人の必須の条件である。

現在の目で過去を見、過去を通じて現在を知る、これが歴史を学ぶことである。歴史像は時代とともに変化する。これは、研究の進展だけでなく、社会の変化とともに過去の事実の持つ意味が変わるからである。

本講では日本の歴史を地域や社会集団ごとに、多様な生活と文化を具体的に描き、国際社会の中でとらえる。このことによって、ややもすれば歴史に対して無関心になりがちな理系の学生諸君に、日本の歴史への関心を呼び起こし、時代を切り開いた人々の努力とエネルギーを説く。

目 標

- 1) 日本の近世・近代史について理解を深める。
- 2) ヨーロッパ・東アジア世界と日本の交流を考えさせる。

授業計画

第1回 日本近世の特質

世界史には近世はない、日本近世の三大特質、兵農分離＝身分制社会、石高制、海禁政策を軸に近世について考えさせる。

第2回 江戸幕府の成立と支配

秀吉・家康の統一、将軍の全国支配と鉢植え大名、国王としての将軍、大名の種類、大名の領内自治支配など政治的問題を学ぶ。

第3回 近世の大開発と都市・農村

地域統一と灌漑施設、産業の発展と名産、城下町江戸、天下の台所大阪、工業都市京都の発展を取り上げる。

第4回 近世農村の生活

年貢負担者としての農民の役割、農書を読む人々、農具の改良、金肥拡大を取り上げる。

第5回 海禁と貿易港

海禁の進行、近世初期の貿易、近世に開かれていた四つの港＝対馬・長崎・琉球・蝦夷地の実態、オランダ風説書の役割を学ぶ。

第6回 ヨーロッパ諸国の接近＝外患

ロシアの蝦夷地進出、アヘン戦争の脅威、鎖国論、ペリーの浦賀来航、日米修好通称条約の問題点を学ぶ。

第7回 小テストと講評

今まで学んだことを整理させ、基本的な用語を確認させる。

第8回 明治政府の新政治

領土の土地人民から日本の人民へ、廃藩置県、近代的政治体制の成立を学ぶ。

第9回 文明開化と国民意識

文明開化の意味、その必要性、国民の創出、国民の義務を取り上げる。

第10回 産業の近代化と日清・日露戦争

上からの近代化、大日本帝国憲法、日清・日露戦争、植民地をもつ国、一等国意識を取り上げる。

第11回 大正デモクラシー

大正デモクラシーの具体像、民衆の自己発見と大衆文化、「主婦」の誕生などを取り上げる。

第12回 敗戦と戦後民主主義

満州事変から太平洋戦争へ、ポツダム宣言、敗戦と占領軍、日本国憲法と平和主義を取り上げる。

第13回 55年体制と高度経済成長

冷戦と東アジア、55年体制の成立、高度経済成長と生活の変化、沖縄の日本復帰を取り上げる。

第14回 小テストと講評

今まで学んだ事を整理させ、基本的な用語を確認させる。

第15回 定期試験

授業方法

中学・高校で学んだことを随時質問をしながら講義によって授業を進め、テキストの関連部分を音読させる。

学習到達度の評価

- ① 授業中に教員より質問し、理解度を確認する。
- ② 授業に関連したことについて、レポートを書かせて発展学習を促す。
- ③ 2回の小テストと学生からの質問で到達度を確認する。

評価方法

定期試験（80点）・小テスト（10点）・レポート（10点）の成績によって判定する。

教 材

テキスト：荒木敏夫・保坂 智・加藤哲郎『日本史のエッセンス』有斐閣（1997）

科 目 名

歴史学と課題Ⅱ History Ⅱ

2年 後期 2単位 選択

西村正顯

概 要

高等学校において日本史が必修教科から外されて久しい。グローバル化が進んだ現在、仕事をする中で外国人と交わる機会が非常に多くなっている。外国人は自国の歴史を堂々と自信をみなぎらせて語るのに、日本の若者が祖国の歴史を語れないのは実に残念なことである。

本講では、日本の近世・近代・現代の歴史を、新たな史実を検証しながら学んでみたい。

目 標

- 1 近世・近代・現代の歴史の発展を理解する。
- 2 外国との関わりの中で日本はどのような選択をしたか、当時の時代背景と共に理解する。

授業計画

第1回 戦国時代から織豊政権へ

戦国大名の富国強兵策とはどのようなものであったか、また織田信長が群雄割拠の中から頭角を現し全国統一への先鞭をつけ、豊田秀吉が統一を成し遂げた過程とその政策を考える。

第2回 幕藩体制の成立

江戸幕府が約260年間も続いたのは、その緻密な統治システムが機能したことによる。江戸幕府の国内統治政策及び対外政策について考える。

第3回 将軍家綱から家治までの幕政

江戸幕府が安定し泰平の時代を迎えるが、農業に過度に依存する統治システムは幕府財政・藩財政を次第に逼迫させていく。その過程と将軍吉宗の改革の意義について考察する。

第4回 江戸時代の社会と文化

産業の発達や商業の活発化に加えて、鎖国により外国文化が国内に入りにくくなった江戸時代には、日本独自の文化が一般庶民を支持者として大いに発展した。

第5回 大御所時代から幕末の混乱へ

江戸幕府が長く続いたために国内に退廃的なムードが蔓延しているさ中にロシアやイギリス等の外国勢力が接近し、幕末の激動の時代へと突入する経緯を考える。

第6回 開国と幕末の動乱

ペリーの来航によって開国を余儀なくされた幕府、朝廷を中心に攘夷を主張する人々、薩摩・長州は西洋列強との戦争を経験して攘夷が不可能であることを悟り倒幕へと舵を切る。それぞれの立場の人々の努力と苦悩について考える。

第7回 明治維新と立憲国家の成立

新政府は、欧米列強が植民地を拡大していることを脅威に感じ、一刻も早く列強に対抗できるような近代国家を作るために近代的な制度の整備に尽力し様々な改革を断行する。一方で急激な改革は混乱も生じた。

第8回 日清・日露戦争と資本主義の発展

日清・日露戦争の背景を当時の日本人の国家観も含めて詳細に検証する。またこの両戦争が日本の産業の発展とどうつながって行ったのかについても考える。

第9回 近代文化の発達

明治政府は強大な欧米列強に対抗するために「富国強兵」「殖産興業」「文明開化」といったスローガンをかかげて西洋文明の移植による急速な近代化をおしすすめた。その具体的政策と効果について考える。

第10回 第1次世界大戦と日本

ヨーロッパで勃発した第1次世界大戦は世界をどう変え、日本にどのような変化をもたらしたかを考える。

第11回 大正デモクラシー

大正時代は、日本の社会に様々な変化が顕著に表れた時代であった。そのような変化が現れた時代背景と具体的な社会運動について考える。

第12回 ワシントン体制と幣原外交

第1次世界大戦の反省から国際連盟が作られたが、アメリカは国内事情から参加しなかった。しかし、大統領が代わるとアメリカは現実的経済外交に転換し、国際協調のためにワシントン会議を提唱した。日本もこれに同調し、軍部の反対を抑えながら協調外交を推し進めた。

第13回 軍部の台頭と第2次世界大戦

戦後恐慌・震災恐慌・金融恐慌・世界恐慌・昭和恐慌・農業恐慌と第1次世界大戦後の日本は経済的に非常に厳しい時代が続いた。このような状況打開の突破口を大陸に求めた軍部は日中戦争の泥沼に引きずり込まれ第2次世界大戦で壊滅的な打撃を受けることになった。

第14回 戦後の日本

連合軍の占領下で行われた種々の改革、GHQによって作られた日本国憲法、朝鮮戦争と日本の独立、日米安全保障条約の締結など、今日の日本に引き継がれ再検討が叫ばれているものは多い。当時の時代背景を検証しながらそれらの問題点を考える。

第15回 定期考査

後期授業の理解と学習到達度を評価する。

授業方法

テキスト及び各時限に配布する資料をもとに講義を行う。

学習到達度の評価

毎時間その授業についてレポートを書かせ、授業の理解度を把握する。

授業においては極力質問を発し、学生に歴史上起こった事象について「何故？」と考えさせ、学生の思考態度を評価する。

評価方法

毎時間書かせたレポートと定期試験の成績で評価する。

配点はレポート50点、定期試験50点とする。

教 材

テキスト「日本史のライブラリー」（とうほう）、配付資料ほか

履修上の注意

- 1 歴史的事象について「何故？」という気持ちで、自ら授業に積極的に参加し考える。
- 2 各時間の内容をしっかりと押さえる。そのためのレポートである。